甘えのない事業構築

令和７年２月６日
黒田インターナショナルコンサルティング LLC
黒田　毅

企業は決して甘えを持ってはいけない。それがすべての間違いの原因なのである。これらは、企業経営における厳しさの要求であり。よい企業は必ずこの厳しさを有するのである。

これらが結果を可能とする唯一の基盤なのである。これら正しい理解は、正しい企業経営を可能とできるのである。

企業で唯一評価を与えることは、勤務態度なのである。それらがより優れた自己を与え、結果を実現できるのである。

これら正しい評価は、正しい企業環境の実現を与えることができるのである。これら企業における正しい評価は、正しい意欲の形成と企業風土を与えるものである。

これらは日本の企業における長所であり、マネーゲームと一線を画す高い企業倫理性の原点である。

これら日本的現実は、今日世界資本に対する日本の開国という新しい現実に直面するのである。これらグローバル系税に組み込まれる日本経済は、自由主義陣営における経済の安全保障という枠組みとともに、世界経済への新しい自己現実を有するのである。

また技術とシステムの進歩は、その時代変化におけるはるかに想像に勝る変化をそのスピードとともに有する。

これらは革命的な変化が存在するのである。これら変化へ上記日本的根現実は直面しているのである。

これはビジネスにおける根本性への理解を要求する。西洋の原理と日本的原理原則の相違性である。

資本への判断の相違性であり、今日日本企業が移行する西洋的な判断への理解なのである。働くことへの美徳が、利益の追求へ転換しているのである。

これらが今日日本企業が直面する現実であり、本来企業は働くことにおいて、その結果を求めることが本来の姿であり、それが利益の適正化を与えることが、正しい手段なのである。これが日本的経営の本質である。

しかし西洋の先端技術システムにおける製品が、その革命的独創性や進歩を有し、新しいビジネススタンダードを形成する中、明らかに日本企業はその根本性を見失っているのである。

これは西洋の根本性が競争原理における自己であるということに対して、日本の村社会の原理は完全に相違するのである。

現在日本の企業は必ずこの理解を要求されると考える。西洋と日本の根本的な相違性が存在するためである。

しかしこれら日本の現実は、新たな創造性という自己を有するとき、限りない可能性を与えられることは必ず存在するはずであると考える。それらが世界との対等性を実現し、新しい未来という自己を有することは可能であると考えるためである。